

春まき青首ダイコンの有望品種と播種日

県農業試験場 阿蘇分場(現、農研センター高原農業研究所)

研究のねらい

嗜好性の変化にともない春まきの作型でも白首ダイコンから青首ダイコンの栽培が望まれるようになった。しかし、春まき青首ダイコンでは早まきほど抽台が問題となる。また、収穫適期を逃すとす入りの発生で品質が低下する。

そこで晩抽性で収量、品質に優れた有望品種の選定とマルチの効果を検討し、併せて早まきの限界を明らかにする。

研究の成果

1. 「耐病総太り」を対照に12品種を用いて試験を実施した結果、品種は「おはる」「長形春富」が収量、品質及び晩抽性で優れ、有望であった。
2. 花芽分化(抽台)は、晩種から20日間の日平均温が「おはる」で12℃、「長形春富」で11℃と考えられ、「耐病総太り」の16℃より低く、早まきが可能であり、過去の気象データから標高別に早まき限界日を表2のように推定した。
3. さらに、透明ポリマルチの使用により地温が上昇するため、早まき限界日を5日程度早くすることが可能で、途中の生育促進効果も加わって収穫までの日数は、7~10日早まり、マルチの効果は春まき栽培で高い。
4. 「長形春富」は、首部の根径が6cm以上になるとす入りが進むため、収穫適期を逃がさないように注意する。

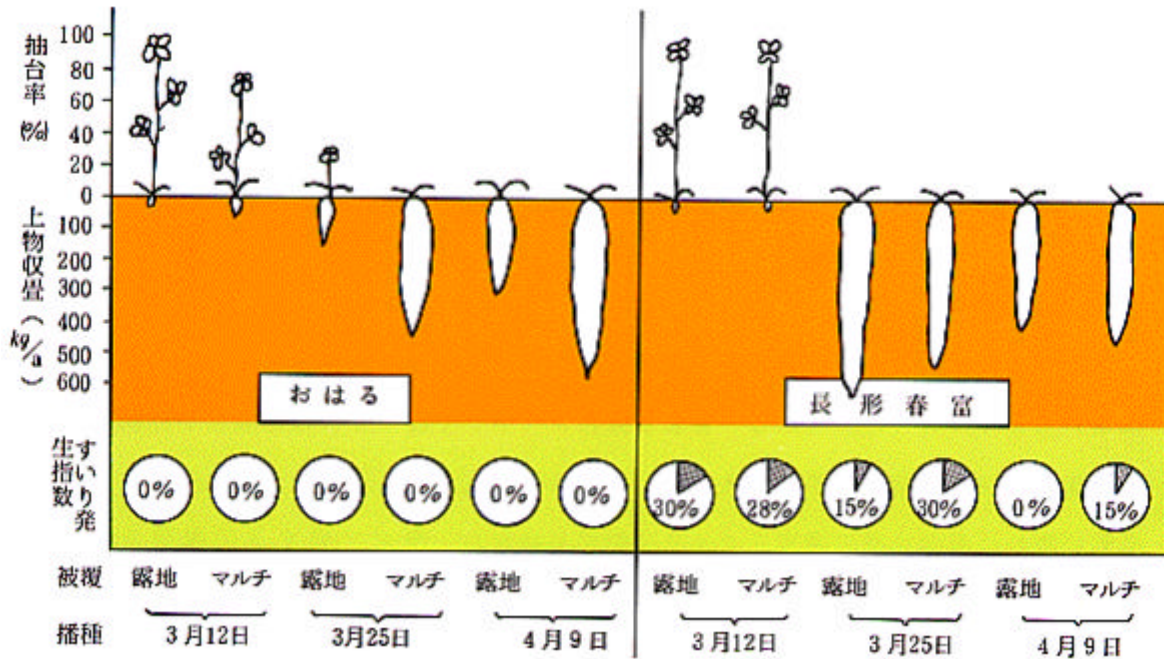


図 有望品種の播種期別抽出率の変化

表 1 有望品種の特性

品種名	晩抽性	限界温度	青首色	生育期間	茎葉	根形	肉質	す入り	その他の障害
耐病総太り	弱	16		長	大	中～長根総太		極難	首絞肌
おはる	やや強	12		長	やや大	中～長根総太		難	
長形春富	強	11		短	小	長根総太		中	曲

表 2 有望品種の標高別早まき及び早まき安全限界日のめやす

品種名	標		高
	80 m	540 m	850 m
おはる	4月 1日(4月10日)	4月10日(4月20日)	5月 1日(5月10日)
長形春富	3月20日(4月 1日)	4月 1日(4月10日)	4月10日(4月20日)

- 1 昭和49～59年の平均気温から推定
- 2 ()内は安全限界日、上記年の最低年から推定
- 3 マルチ栽培では5日早く播種が可能である。